

認定遺伝カウンセラーは、「遺伝医療を必要としている患者や家族に適切な遺伝情報や社会の支援体制等を含むさまざまな情報提供を行い、心理的、社会的サポートを通して当事者の自律的な意思決定を支援する保健医療・専門職」です。現在、全国に25の認定遺伝カウンセラー養成専門課程を設置した大学院が開設されており、課程修了者は日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会共同の認定試験に合格した後、その資格を得ることができます。2022年12月現在、本邦には356人の認定遺伝カウンセラーが在籍し、北海

遺伝子診療最前線 up to date

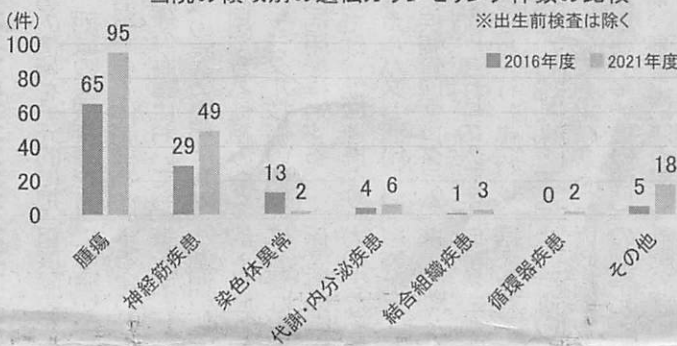
②遺伝カウンセリングの過去と未来 ～認定遺伝カウンセラーの視点から

北大病院臨床遺伝子診療部
認定遺伝カウンセラー

佐々木 佑菜
柴田 有花

北大病院臨床遺伝子診療部認定遺伝カウンセラー。佐々木佑菜、柴田有花。この理由増加しました。この理由の支援や、遺伝に対すると、ゲノム医療の発展により遺伝カウンセリングのきつかけとなる窓口に増加したことで、対応することが難しいならに幅広い対応が必要に。遺伝カウンセリングなつたことが挙げられます。例えば、これまで腫瘍領域では特定の遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリングがほとんどで、がん遺伝子パネル検査の登場をきっかけに、同時に複数の遺伝性疾患に対応する機会も増えています。当院では、治療薬の開発に伴った発症前診断の症例も増加しています。価値観や性格と比較し、遺伝カウンセリングの中で整理しなけ

当院の領域別の遺伝カウンセリング件数の比較
※出生前検査は除く



ればならぬ。臨床遺伝部門が存在する情報量も増加している。施設は限定されている。増えている。札幌近郊だけではなく、道内各地の医療機関者一人一人から当院に遺伝カウンセリングの思いを傾ける。これまで対面での実施を丁寧に行ってきた遺伝カウンセリングを整理しながら、各地のニーズに応じるには、通信時にはさまざまな機器を用いた遠隔遺伝カウンセリングの導入も検討する必要があります。また、他の医療専門職の方々の協働するために連携体制を構築することが必要です。ゲノム医療の勢は変わらなく、遺伝カウンセリングの発展のために、時代に合わせ私たちが自身も成長していきたいと考えています。現在、